



いわて県民計画 (2019~2028)

東日本大震災津波の経験に基づき、
引き続き復興に取り組みながら、
お互いに幸福を守り育てる希望郷いわて



11

じんこう

人交密度向上プロジェクト

人「交」密度：短期的な交流人口のほか、長期的な定住人口につながる地域や地域の人々と多様に関わる者でもある「関係人口」について、「人数（量的）」と「関係の強さ（質的）」の両面に着目し、用いた言葉。なお、「関係人口」における「関係」については、特産品購入から、ふるさと納税などの寄付、頻繁な訪問、現地ボランティア活動、二地域居住まで様々な形が想定されるもの。

(1) プロジェクトのねらい

東日本大震災津波の復興支援を契機とした、国内外からの震災復興支援者やボランティアの方々に加え、今後、国際リニアコライダー（ILC）実現などにより世界各国から研究者等が訪れるなど、多様な主体との交流の機会が増加することが想定されます。

このため、第4次産業革命技術を活用して、岩手県の地域や人々と多様に関わる「関係人口」の質的・量的な拡大を図り、これらを通じて世界中がいつでも、どこでも岩手県とつながる社会を実現し、関係人口の継続的かつ重層的なネットワーク形成などによる「人交密度」の向上を目指します。

(2) 課題と展望

- ア 人口減少が進む中で、東日本大震災津波の復興支援を契機とした、国内外の多様な主体との活発な交流が続いています。
- イ 国の「これからの移住・交流施策のあり方に関する検討会」において、地域や地域の人々が地域コミュニティとの継続的なつながりを持つ「関係人口」の重要性が強調されています。
- ウ 「関係人口」の質的・量的拡大に向けては、国が推進する Society5.0 に掲げる情報通信技術（ICT）等の第4次産業革命技術を積極的に活用することが必要となります。

(3) 内容

① 岩手県に関する様々な情報やサービスの配信など、いつでも岩手につながるができる環境の整備

- ア 人工知能（AI）を活用した地域情報と興味関心・ニーズとの最適マッチングや各種提案などきめ細かなサポートによる U・I ターンの促進
- イ 電子住民票の発行（i-パスポート等）により、いつでも岩手とつながる情報・サービスを提供するなど情報通信技術（ICT）を利活用した多様な関係の創出

ウ 県内各地での仕事やライフスタイルに関する情報発信や双方向での情報交換など産学官金が連携したソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）の活用促進

② 岩手へのつながりが地域活動への多様な参加や課題の解決などに結び付く「様々な主体の参画によるネットワークの形成」

ア 情報通信技術（ICT）を活用して「いつでも・どこでも・誰もが」岩手について学べる環境の提供

イ 世界的視野で思考する「いわて」県民の育成や、海外在住者、国際リニアコライダー（ILC）研究者とのネットワーク構築・グローバルな交流などにより外国をもっと身近に感じる環境づくり

ウ 様々な岩手への「想い」や「関わり方」を「関係人口データベース」として取りまとめ、県や市町村、民間企業などが持つ様々なネットワークを可視化し、重層的につなげる仕組みづくり

③ 情報通信技術（ICT）を活用したライフスタイルに合わせた働き方、地域貢献活動など多様な交流の場の創出

ア クラウドファンディング^{*127} やスキルシェア^{*128} など、情報通信技術（ICT）を活用し、岩手に関係する人々のもつ多様なスキルや想いと地域課題を結びつける取組の推進

イ 民間企業の知見を地域社会の課題解決に結びつける企業ボランティアなど、企業や企業人と地域コミュニティとのマッチング促進



用語解説

***127 クラウドファンディング**

不特定多数の人が主にインターネット経由で他の人々や組織に財源の提供や協力などを行うことを指す、群衆（crowd）と資金調達（funding）を組み合わせた造語。

***128 スキルシェア**

個人等が保有する活用可能な資産等を、主にインターネットを介して他の個人等も利用可能とする経済活性化活動であるシェアリング・エコノミーのうち、ホームページ作成やデザイン・イラスト、企画・アイデア提案などのスキルを活用するもの。

(4) 工程表

取組内容	短期的 (2019～2022)	中期的 (2023～2026)	長期的 (2027～)
いつでも岩手につながる ことができる環境の整備	AI活用方策の検討	試行的実施	AIを活用したサポートの本格展開
	きめ細かなサポートの実施		
	電子住民票等 制度調査・検討	電子住民票等試験的導入	本格的な制度導入・運用による 多様な「住民」の形の創出
	岩手の仕事やライフスタイルに係る SNS等を活用したPR	ILC関連での研究者などグローバルな視点で「岩手の暮らし」のPR	
岩手へのつながりが地域 活動の多様な参加や課題 の解決などに結び付く 「様々な主体の参画による ネットワークの形成」	民間企業等と連携した ICTを活用した学習環境の整備	動画学習教材等ICTを活用したコンテンツの充実	
	ICTを活用した若年者の海外交流機会の拡充		仮想空間等を活用した国際的 ネットワークによる人的交流拡大
	多方面でのネットワークの拡大	ネットワークの強化・活用	
	取組事例調査	「関係人口」に関する県民への理解醸成 「関係人口データベース」とりまとめ	世界へ向けた情報発信
ICTを活用したライフスタイルに合わせた働き方、 地域貢献活動など多様な 交流の場の創出	活用手法検討	県内各地でのモデル事業など試行的実施	マッチングの促進
	県内各地でのモデル事業の実	全県での展開	企業との連携の拡大

(5) プロジェクトで目指す姿

- ア 人工知能（AI）や情報通信技術（ICT）を積極的に活用することで、言語や距離などの壁を越え、いつでも、どこでも岩手につながる環境が生まれ、地域の内外で人々の新たな関係が創出されます。
- イ 「人交密度」が向上することにより、地域の祭りや特産品開発など地域活性化に関する取組に地域外から貢献したい人が積極的に参画するなど、賑わいあふれるまちが創造されます。
- ウ クラウドファンディングやスキルシェアなど情報通信技術（ICT）を活用した仕組みを通じて、地域内外からスキルや想いを持つ人や企業が地域課題解決に対して貢献するなど、多様な交流が生まれます。
- エ 人交密度が向上することによって、さらに新たなつながりが生まれ、どこにいても岩手とつながることで関係人口が増加し、長期的な人口減少の抑止にもつながります。

